

病院全体

参加形式: 必須

指標名: 手術ありの患者の肺血栓塞栓症 b. 手術ありの患者の肺血栓塞栓症の発生率

定義の要約:

分子) 分母のうち肺血栓塞栓症を発症した患者数

分母) 肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数

指標の定義・算出方法:

1. 計測期間において、指標「手術ありの患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率(リスクレベルが中リスク以上)」と同様に分母を算出する。
2. 分母のうち、様式1の入院後発症疾患名に「肺塞栓症(I26)」が記載されている患者を抽出し、分子とする。

式	単位
$(\text{分子} \div \text{分母}) \times 100$	% (パーセント)

その他:

意義:

深部静脈血栓症の危険因子には、加齢、悪性腫瘍、肥満や妊娠、長期臥床など、周術期以外の場面でも発症するリスクがある。ガイドライン通りに予防措置を行ったとしても、肺血栓塞栓症／深部静脈血栓症を完全に予防できるわけではないが、予防する行為を行っていないければ、その発症率は高まる。

留意点:

参考資料:

独立行政法人 国立病院機構 臨床評価指標 Ver.3 計測マニュアル

肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症(静脈血栓塞栓症) 予防ガイドライン

The Joint Commission; Specifications Manual for National Hospital Inpatient Quality Measures, Version 4.3b VTE-6 Incidence of Potentially-Preventable Venous

Thromboembolism(http://www.jointcommission.org/assets/1/6/HIQR_Jan2014_v4_3b.zip)